

No. 1183 (二〇一五年一月一日号)から

No. 1206 (二〇一五年十二月十五日号)まで

No. 1183 (二〇一五年一月一日)

◇巻頭言◇ 階級対立、階級闘争、社会主義

山下 俊幸

本物の労働運動を復活させよう

デフレとは恐慌なり

鈴木 賢二

新年を迎えて、隗(かい)より始めよう

原 野人

―総選挙から学ぶべきこと―

人口逆ピラミッド社会における行政課題と

解決に向けての方策(一)

中澤 秀行

『資本論』を、どう読むか(一)

小林 晃

―経済学の方法と「宇野理論」―

派遣法改悪、残業代ゼロ法を許すな

塚原 久雄

―労働法制の総破壊と闘おう―

読者からのおたより

新年にあたって

No. 1184 (二〇一五年一月一日)

◇巻頭言◇ 機械は、労働者の労働を楽にするか？

森 勉

日本における人口推移の検証

中澤 秀行

―人口問題 根本解決への基本視点(二)―

国労「組織と運動のあり方」を検証

国労上野反合研

―国労再生への願いをこめて―

トーマ・ピケティと『21世紀の資本論』について

―ドイツND紙の記事(二四年一〇月一三日)原八峰訳からの紹介(上)―

徒然の記―回想と感想

北畠 清仁

読者からのおたより

No. 1185 (二〇一五年二月一日)

◇巻頭言◇ 向坂先生を偲ぶ

早田 昌二郎

当面の、そして長期的な人口問題への対処について

中澤 秀行

―人口問題 根本解決への基本視点(三)―

◇ドイツND紙の記事Ⅱ 原八峰訳からの紹介(下)◇

ピケティは何が資本主義かを問わない

彼は何を成し遂げたか、そして何を成し遂げなかったか

仲間を支える態勢、そして覚悟

―「福本裁判」の教訓―

読者からのおたより

No. 1186 (二〇一五年二月一五日)

◇巻頭言◇ 春闘六〇年 ― 資本の本質は変わっていない
東京における「向坂教室」

滝野 忠
宮坂 要

― 国労反合研と向坂逸郎先生 ―

「日常の事務をしつかりやることを怠るな」

浜田 嘉彦

― 向坂先生の叱咤激励 ―

『資本論』をまず読む！

稲村 守

― 望むは向坂逸郎全集発刊 ―

『共産党宣言』を元旦に読む

原 野人

― 上野論文『中国の今をどうみるか』も見る ―

『資本論』を、どう読むか (二)

小林 晃

― 経済学の方法と「宇野理論」 ―

読者からのおたより

No. 1187 (二〇一五年三月一日)

◇巻頭言◇ 横暴を極める独占資本

原 野人

福島事故から五年目を迎えて

長びく避難生活、見えない将来

原発事故被害者 相双の会

― 話し合い、行動を起こし、生活再建の道をきりひらきましょう ―

被災者の生活に目をつぶる政府はいらない 相沢 一正

― 福島県飯館村の現状踏まえ、新たなスタートへ ―

◇新社会党兵庫・震災アピール◇

新社会党兵庫県本部

阪神・淡路大震災から二〇年 震災は終わっていない

大幅賃上げを！ 春闘六十年、原点に帰ろう

稲村 守

『資本論』を、どう読むか (三)

小林 晃

― 経済学の方法と「宇野理論」 ―

読者からのおたより

No. 1188 (二〇一五年三月一五日)

◇巻頭言◇ 労働時間法制改悪への基本視点

伊勢 太郎

不払い労働そして搾取

許すな！ 労働者の使い捨て、使い潰しの「残業代ゼロ法案」

塚原 久雄

反合理化春闘を 現場・地域から

森 勉

資本主義は行き詰まっている

国労上野反合研

― 鈴木賢二さんの講演から ―

高浜原発再稼動を阻止する！

稲村 守

― 川内に比して立ち遅れた現地闘争 ―

◇資料◇ JAL 不当解雇撤回乗員原告団・JAL 不当解雇撤回客乗原告団

日本航空は不当解雇を撤回し、165名を職場に戻せ

読者からのおたより

No. 1189 (二〇一五年四月一日)

◇巻頭言◇ 資本主義社会の矛盾激化は必至

世界の政治、経済情勢について

「防災」と独占資本

『21世紀の資本(論)』と『資本論』

地方創生という欺瞞を暴く

― 地方創生の経緯と目論見 ―

辺野古ゲート前テントを守りきる！ 創意工夫の闘いに希望！

― 全国一般東京労組・全労沖縄派遣団からの報告 ―

15春闘「過去最高」の大ウソ

読者からのおたより

滝野 忠

原 野人

小林 晃

浜田 嘉彦

No. 1190 (二〇一五年四月一五日)

◇巻頭言◇ 安倍支持率 高いわけ

『資本論』と現代の奴隷工場

― 昔も今も資本主義はやばい！ ブラック企業の今昔 ―

民主党は再生できるか

― 現代政治を考える① ―

だからだした慢性的恐慌

― 「デフレ」の本質 ―

資料 エンゲルス『イギリス労働者階級の状態』への序文

恐慌―新しい性格について

読者からのおたより

編集部

滝野 忠
稲村 守

No. 1191 (二〇一五年五月一日)

◇巻頭言◇ 戦場に近づく自衛隊

― 平和憲法にとつて、異常な、非常事態 ―

全国の原発再稼働を止める根拠に

― 画期的な福井地裁仮処分決定 4・14 ―

天皇夫妻と安倍晋三

― 向坂逸郎三十周忌に思う ―

議会制民主主義、そして小選挙区制

― 現代政治を考える② ―

思想が武器に勝った

― キューバとアメリカ (一) ―

負担増とサービス削減のラッシュ

― 介護保険 やはりこうなる ―

読者からのおたより

森 勉

稲村 守

原 野人

編集部

滝野 忠

長南 博邦

No. 1192 (二〇一五年五月一日)

◇巻頭言◇ 高浜原発の再稼働禁止と川内原発

―政府・経産省が描くは「ワーストミックス」―

◇被災地・東北の今◇

自然災害の恐ろしさ、それ以上の原発被害

『学習 春闘と労働組合の階級的強化』

―四国の仲間の手作りパンフ―

新しい政治文化

―キューバ 思想が武器に勝ったわけ (二) ―

無関心は自民を利する

―統一地方選の結果から―

読者からのおたより

No. 1193 (二〇一五年六月一日)

◇巻頭言◇ 安保法制と労働法制の改悪を許さない

戦争の隠された裏面を学ぶ―「旧日本陸軍登戸研究所」を見学

三万人が集まった、次は十万人規模だ

―五・三憲法集会、そして社説―

三つのメーデー 雑感

―資本主義に未来はない―

賃金論そして要求方式

―春闘の歴史と現代 (一) ―

◇資料1 政労資会議 (二〇一三年一月二〇日)

経済の好循環実現に向けた政労使の取組について

◇資料2 二〇一四年一月二〇日

経済の好循環の継続に向けた政労使の取組

橋下に勝った

―「大阪都構想」住民投票―

読者からのおたより

No. 1194 (二〇一五年六月十五日)

◇巻頭言◇ ストライキで闘ってこそ

連合は今こそ存在価値を示すとき

民族主義と資本主義

―吉田松陰と安倍晋三―

「沖縄の思い×沖縄への思い」 No. 7 (二〇一五年五月二五日)

うちなーんちゅーしえーてえーないびらんどー

(沖縄人をないがしろにしてはいけませんよ)

―5・17沖縄県民大会から思うこと―

◇資料◇ 沖縄県民大会 決議全文

唯一の解決策は米軍普天間基地の閉鎖・撤去

政労使会議、そして生産性向上運動

―春闘の歴史と現代 (二) ―

戦争への道をゆるさない 6・23東京集会

読者からのおたより

原 野人

小城 智子

滝野 忠

編集部

滝野 忠

浜田 嘉彦

原 野人

毛利 孝雄

滝野 忠

No. 1195 (二〇一五年七月一日)

◇巻頭言◇ 安保法制はむろん、自衛隊も憲法違反
釣るゾ 山女・岩魚

伊勢 太郎
蓑輪 泰臣

― 弥次喜多道中第三弾 佐渡への釣行 ―
労働者思想の確立

滝野 忠

― 春闘の歴史と現代 (三) ―
「マルクス・レーニン主義者である私たちの権利」

フィデル・カストロ

訳・富山 栄子

慰謝料・避難指示による分断は許せない

原発事故被害者 相双の会

― 被害者はみな仲間 ―

勝負はこれから―大阪市解体を阻止

全労協

読者からのおたより

No. 1196 (二〇一五年七月一日)

◇巻頭言◇ キューバの大勝利

滝野 忠

― オバマ大統領は敗北宣言 ―

支離滅裂な安倍首相

原 野人

― 独占資本は「国民の命と平和な暮らし」を限りなく奪う ―

◇資料1 文化芸術懇談会◇

沖縄のメディアは左翼勢力に乗っ取られている

◇資料2 琉球新報・沖縄タイムス共同抗議声明◇

言論・表現の自由弾圧にはだんこ反対

稲盛名誉会長、山口社長による言語道断の暴挙

稲村 守

― 京セラ株主総会報告 ―

釣れた！ 登った！ 小林名人に弟子入り

蓑輪 泰臣

― 弥次喜多道中第三弾 佐渡への釣行 (二) ―

読者からのおたより

No. 1197 (二〇一五年八月一日)

◇巻頭言◇ 労働組合強化への基本視点

滝野 忠

見えない組合大会の議論(二)

今、東京の学校現場は：

伊藤 光隆

戦争を起こすのは政治と教育そして貧困

長南 博邦

― 教育に忍び込む歴史歪曲教科書 ―

向坂逸郎と労農派社会主義

稲村 守

憲法、国家、安保法制

― 平和国家から戦争国家への大転換 ―

読者からのおたより

No. 1198 (二〇一五年八月一日)

◇巻頭言◇ 3・11を無かったことにしていいんですか
参加し、行動し、感じ、考えたこと

相沢 一正

藪 芳郎

— 安保法案成立阻止座り込み行動に参加して—

東芝の醜態と原発依存症の果てに

原 野人

— 多国籍企業と独占資本—

私の闘争宣言

畠山 勝巳

— 二〇一五年をリベンジの年に—

「安全保障戦争法案」を廃案に！

国労上野反合研

— 「平和国家」日本のあり様を根本から変える—

編集部だより

読者からのおたより

No. 1199 (二〇一五年九月一日)

◇巻頭言◇ 戦争と軍と「戦争法」

滝野 忠

安保法制 廃案めざす

赤峰 正敏

— 「安倍政権NO！」で学習会—

再び国労の歴史に汚点

— 国労第84回定期全国大会報告—

道北の旅 — 元闘う闘争団員をたずねて

小林 義昭

山崎耕一郎氏の社会主義論(上)

原 野人

— 『マルクスと日本人』佐藤優×山崎著を読んで—

読者からのおたより

No. 1200 (二〇一五年九月一日)

◇巻頭言◇ 『社会通信』通巻一二〇〇号と支えた力

滝野 忠

山崎耕一郎氏の社会主義論(下)

原 野人

— 混乱を脱却し共同戦線の推進者たれ—

職場につのる不条理と闘え

大阪郵政労運研

— 2015 J P 近畿地方大会の感想—

年金番号流出、いま職場は

◇組合大会をふり返る(上)◇

ナショナルセンターの方針と組織

編集部

読者からのおたより

No. 1201 (二〇一五年一〇月一日)

◇巻頭言◇ 戦後七十年 歴史的転換の時

私たちは闘い続ける

◇組合大会をふり返る(中)◇

組織拡大、参院選、春闘

向坂先生没後三十年

―菅原須摩子さんからのおたより―

沖縄の「地鳴り」を聞く

―「誇りある豊かさ」や「自己決定権」から民主主義を獲得し直す―

一二〇〇号と編集稼業四〇年

―小林晃氏 新刊「現代と『資本論』」発行―

五台の車で原発正面ゲート封鎖

―川内原発再稼働のその日―

安保法制 強行採決

―たたかいはこれからだ(上)―

読者からのおたより

武庫川ユニオン

編集部

滝野 忠

毛利 孝雄

向原 祥隆

No. 1202 (二〇一五年一〇月一五日)

◇巻頭言 読書の秋◇ よい書が必要な時に

―小林晃著「現代と『資本論』」(新潮社)の出版を喜ぶ―

現実と夢

―フィデル・カストロ 八九歳のメッセージ―

今から何をなすべきか

―安保法制強行からの考察―

日米合同軍事演習反対! 戦争法案廃案!

―9・12あいは野集会開催―

武器生産、輸出ふやせ

―経団連「防衛産業政策の実行に向けた提言」―

◇組合大会をふり返る(下)◇

労働組合強化への道 思想を学ぶ

読者からのおたより

富山 栄子訳

藪 芳郎

稲村 守

No. 1203 (二〇一五年十一月一日)

◇巻頭言 ストライキで闘う全労組

労働者が主人公の職場づくり

第四次世界大戦の可能性も

―中東をめぐる動きについて(二)―

ヨーロッパ分離・独立の運動

―背景と本質―

資料 十月十四日(水)の早朝行動(六時)に大結集

翁長知事「埋立承認取消」に応えよう

地域、職場から十七の発言―全労協大会

これが連合大会の実態だ―連合第一四大会

読者からのおたより

国労上野支部

No. 1204 (二〇一五年一月一日)

◇巻頭言 高揚した戦争法闘争

新しい大衆運動を 労働組合が支えよう

「原発いらない」「戦争法廃止」デモ・パレードも

—さようなら原発・戦争 北海道集会—

安保関連法の廃止めざす

10・21占冠地区集会

戦後七〇年、沖縄と国会前のはざま

毛利 孝雄

地方自治、教育委員会のあり方を問う

—『まやかしの教育 三条市の小中一貫教育と小中一体校』を読む—

読者からのおたより

No. 1205 (二〇一五年二月一日)

◇巻頭言 生産性向上の大合唱に抗せよ

—一六春闘をめぐる情勢(一)—

滝野 忠

育鵬社の教科書採択を阻止!

伊藤 光隆

—四年間の闘いが実を結ぶ 東京大田区—

宗派闘争は本当か

—イスラム世界とアラブ世界(二)—

相沢 一正

原発事故とコミュニティ

—神山(福島県相馬市)の人たちの四年半—

国民のプライバシーを国家が入手できるマイナンバー

山下 けいき

—『百害あって一利なし』と反対討論(要約)—

読者からのおたより

No. 1206 (二〇一五年二月一日)

◇巻頭言 関電大阪包囲大集会に千人の怒り

稲村 守

高浜—関電リレーデモ二百キロ貫徹

「労組の不作為の結果」?

小林 晃

—昨今の春闘—

春闘は変質させられた

—一六春闘をめぐる情勢(二)—

TPPによる関税減の財源は?

滝野 忠

—小林晃著「現代と『資本論』」から考える—

超個体(複合共生体)としての生命観

藪 芳郎

の示す教育課題(上)

読者からのおたより